

◆東よか干潟ワイズユース推進プロジェクト

活用した交付金等	基本目標	政策名	施策名	事業実施課	計画認定期間	KPI	単位	指標タイプ	目標・実績	事業開始前	(1年目)29年度	(2年目)30年度	(3年目)R1年度	(4年目)R2年度	最終年度のKPI値
地方創生応援税制	2	交流・関係・定住人口の拡大	観光ホスピタリティの充実	環境政策課	H29. 3. 28 から R2. 10. 31	東と賀海岸ボランティア清掃参加者数	人	水準型	目標 実績	1,570	1,600 1,661	1,650 1,926	1,700 2,120	1,750 1,281	1,750 1,281
						東よか干潟ガイダンスルーム来館者数	人	水準型	目標 実績	15,000	16,000 17,857	17,000 16,559	18,000 15,713	— 3,679	— 3,679
						東よか干潟拠点施設来館者数	人	水準型	目標 実績	0	0 0	0 0	0 0	100,000 88,868	100,000 88,868

R2年度実施・R3年度評価	
進捗状況	総括
○	新型コロナウイルス感染症対策による行動制限等の影響により、イベント参加者や来館者が大きく減少したが、令和2年10月20日に拠点施設として開館した「東よか干潟ビジターセンターひがさす」への来館者数については、シチメンソウの復活や天候に恵まれたこともあり、目標に対し、おおむね達成することができた。

◆佐賀藻類マテリアル活用促進事業～新産業創出プロジェクト～

活用した交付金等	基本目標	政策名	施策名	事業実施課	計画認定期間	KPI	単位	指標タイプ	目標・実績	事業開始前	(1年目)28年度	(2年目)29年度	(3年目)30年度	(4年目)R1年度	(5年目)R2年度	KPI増加分の累計
地方創生拠点整備交付金	3	地域経済を支える産業の振興	未来を見据えたバイオマス関連産業の推進	バイオマス産業推進課	H29. 2. 24 から R3. 3. 31	事業として成果を活用された研究数	件	水準型	目標 実績	0	0 0	2 0	4 0	4 0	5 0	15 0
						企業からの研究受託金額	千円	水準型	目標 実績	0	0 0	10,000 3,000	20,000 3,500	20,000 3,500	25,000 3,000	75,000 13,000
						藻類産業へ参画した誘致企業及び地場企業数	社	水準型	目標 実績	1	1 0	0 0	2 0	2 0	2 0	7 0

R2年度実施・R3年度評価	
進捗状況	総括
△	藻類に関する新たな事業参入に向けて研究を行う企業は出てきているものの、事業展開にまでは至っていない。しかし、実用化に近づいた研究結果も出てきており、企業が研究結果を活用できるような取り組みを進める。さが藻類産業研究開発センターでの研究の実施について興味を示されている県外企業もあるが、コロナ禍による大学への訪問制限があり、実施には至っていない。

◆廃校を活用したローカルイノベーション拠点施設整備事業日新産業創出プロジェクト～

活用した交付金等	基本目標	政策名	施策名	事業実施課	計画認定期間	KPI	単位	指標タイプ	目標・実績	事業開始前	(1年目)30年度	(2年目)R1年度	(3年目)R2年度	(4年目)R3年度	(5年目)R4年度	KPI増加分の累計
地方創生拠点整備交付金	2	交流・関係・定住人口の拡大	特色を活かした移住・定住の促進	地域政策課	H30. 8. 31 から R5. 3. 31	施設が関与した実証的取組のうち事業化されたサービス・商品の利用者数	人	水準型	目標 実績	0	0 0	0 0	200 99	400	600	1,200
						サテライトオフィス誘致企業雇用者数	人	水準型	目標 実績	0	0 0	0 0	20 8	40	60	120
						地元温泉街(古湯)宿泊数	泊	水準型	目標 実績	60,000	0 0	0 0	5,000 △ 3,723	5,000	5,000	15,000

R2年度実施・R3年度評価	
進捗状況	総括
△	企業の設備投資の冷え込みや、人流抑制など、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた結果となっている。アフターコロナ、ウイズコロナを見据え、県内需要喚起や、テレワークなどの新しい生活様式に即した取組を進めていく。

◆やわらかBiz(IT×クリエイティブ×若者・女性)創出事業日新産業創出プロジェクト～

活用した交付金等	基本目標	政策名	施策名	事業実施課	計画認定期間	KPI	単位	指標タイプ	目標・実績	事業開始前	(1年目)28年度	(2年目)29年度	(3年目)30年度	(4年目)R1年度	(5年目)R2年度	KPI増加分の累計
地方創生推進交付金	3	地域経済を支える産業の振興	中小企業・小規模企業の成長支援	商業振興課	H28. 8. 30 から R3. 3. 31	当事業によるIT・クリエイティブ産業における新規雇用創出数	人	水準型	目標 実績	0	0 0	2 7	3 0	12 3	36 8	53 18
						当事業によるIT・クリエイティブ領域における新事業の売上高	千円	水準型	目標 実績	0	0 0	30,000 0	46,600 4,285	169,050 56,184	504,350 90,949	750,000 151,418
						当事業で支援した資金調達案件のうち、調達に成功した延べ件数	件	水準型	目標 実績	0	0 0	8 3	12 11	14 17	16 22	50 53

R2年度実施・R3年度評価	
進捗状況	総括
△	人材育成のためのセミナー開催等においては一定の成果が得られたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により首都圏とのビジネスマッチング(商談成立)に結びつけることができず、KPIの一部が目標を達成することができなかった。今後、首都圏からの「しごと」を獲得できるようなコーディネート力の強化や、コロナ禍に対応したビジネスマッチング手法の構築を行う必要がある。

◆さが藻類産業推進プロジェクト ～広域連携バリューチェーン構築推進事業～

活用した交付金等	基本目標	政策名	施策名	事業実施課	計画認定期間	KPI	単位	指標タイプ	目標・実績	事業開始前	(1年目)29年度	(2年目)30年度	(3年目)R1年度	(4年目)R2年度	(5年目)R3年度	KPI増加分の累計
地方創生推進交付金	3	地域経済を支える産業の振興	未来を見据えたバイオマス関連産業の推進	バイオマス産業推進課	H29. 5. 30 から R4. 3. 31	藻類を活用した新規事業件数	件	水準型	目標	0	1	10	15	15	20	61
								実績		1	2	1	3			
						協会活動による商品開発件数	件	水準型	目標	0	3	15	20	20	30	88
								実績		0	8	2	2			
						藻類産業における新規就業者数	人	水準型	目標	0	20	30	35	35	40	160
								実績		10	8	2	4			
						佐賀市産藻類由来製品出荷額	千円	水準型	目標	0	700,000	300,000	500,000	1,000,000	2,500,000	5,000,000
								実績		0	25,000	26,000	22,000			

R2年度実施・R3年度評価	
進捗状況	総括
△	既に商品開発している企業以外にも、新たに商品開発に取り組む企業が出てきており、新規参入に向けた研究開発は行っているものの、企業数が少なく、新たな雇用の大幅な増加にまではつながっていない。アスタキサンチンを含む藻類をニワトリのえさに混ぜ、アスタキサンチン入りの卵が完成し販売されたことは、複数のメディアに取り上げられ話題となった。

◆中心市街地における人の流れを生み出す効果的な導線(連続性)づくり事業

活用した交付金等	基本目標	政策名	施策名	事業実施課	計画認定期間	KPI	単位	指標タイプ	目標・実績	事業開始前	(1年目)R2年度	(2年目)R3年度	(3年目)R4年度	(4年目)R5年度	(5年目)R6年度	KPI増加分の累計
地方創生推進交付金	2	都市プランニングの強化	街の顔となる駅前空間の形成	商業振興課	R2. 3. 30 から R7. 3. 31	中心市街地居住者数	人	水準型	目標	9,256	23	27	45	51	60	206
								実績		△ 94						
						中心市街地の地価公示(標準値)の平均値	円/m ²	水準型	目標	102,513	200	300	500	500	2,000	
								実績		475						
						中心市街地の主要商店街通行量	人	水準型	目標	63,150	1,850	2,000	3,700	9,500	19,800	36,850
						実績		△ 16,370								
						本事業に基づく遊休不動産の活用物件数	件	累計型	目標	0	1	2	4	4	15	
								実績		5						
						中央大通りの路線価の平均値	円/m ²	水準型	目標	128,000	-	2,000	2,000	3,000	4,000	11,000
								実績		-						

R2年度実施・R3年度評価	
進捗状況	総括
△	新型コロナウイルス感染症の影響等により、KPIの一部が目標を達成できなかった。引き続き、KPIの達成に向けて、中心市街地に都市機能が集積されたコンパクトかつ拠点性の高い都市構造を確立するため、都市機能(商機能等)の誘導のみならず、居住促進に向けた受け皿としての遊休不動産の有用性を発揮する取組を構築するとともに、街なかの魅力をより一層引き上げるため、中心市街地の中心軸(シンボルロード)である中央大通りの将来像や土地利用方針を具現化する取組を強固にする。